

令和6年度第3回松阪地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和6年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿 P 1
- 【資料1】 令和6年度第2回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要 P 2
- 【資料2】 松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況 P 4
- 【資料3】 令和4～6年度の協議（主な意見） P 5
- 【資料4】 松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について P 11
- 【資料5】 松阪地域の中学校卒業者進路先の推移 P 18
- 【資料6】 松阪地域中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減） P 19
- 【資料7】 松阪地域の中学校卒業者数と県立高等学校入学定員の推移と予測 P 20
- 【資料8】 松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の
学科・コースについて（令和7年度） P 21
- 【資料9】 松阪地域の県立高校卒業生（全日制）の進路状況（令和6年3月卒） P 22
- 【資料10】 松阪地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等 P 23
- 【資料11】 松阪地域の専門学科と総合学科の学び P 25
- 【資料12】 令和21年度までの松阪地域の
県立高等学校（全日制）の総学級数について P 28

令和6年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No		所属及び名前
1	学識経験者	三重大学 地域イノベーション学研究科 准教授 水木 千春
2	地域有識者	松阪商工会議所 事務局次長 井村 彰
3		多気町商工会 事務局長 堀江 勝昭
4		大台町商工会 事務局長 上岡 万紀子
5	市町教育委員会教育長	松阪市教育委員会 教育長 中田 雅喜
6		多気町教育委員会 教育長 小林 真一
7		明和町教育委員会 教育長 下村 良次
8		大台町教育委員会 教育長 福岡 佳久
9	県立高等学校長代表	県立松阪高等学校 校長 井ノ口 誠充
10	小中学校長代表	松阪市立鎌田中学校 校長 村田 佳之
11	小中学校PTA代表	松阪市PTA連合会 代表 水谷 大地
12		多気郡PTA連合会 代表 柴田 由貴
13	高等学校PTA代表	松阪地区高等学校PTA連合会 代表 清水 竜也
14	小中学校教職員代表	松阪市立東部中学校 教諭 山際 健太郎
15	高等学校教職員代表	県立松阪商業高等学校 教諭 川合 正宏

令和6年度第2回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和6年11月26日（火）18時30分から20時30分まで
- 2 場所 三重県松阪庁舎 大会議室
- 3 概要

15年先の松阪地域の県立高校の学びと配置のあり方についての協議や、松阪地域の中学生と保護者へのアンケート結果をふまえながら、令和8年度から令和11年度に想定される県立高校の学級減への具体的な対応の方向性について、協議しました。

主な意見は次のとおりです。

《アンケート結果について》

- 商工会から、ある高校の探究的な学習のテーマに、地域の祭りの企画運営を提案したところ、多くの生徒が喜んで取り組んでくれた。一方で、アンケートでは高校選びで重視することとして、地域と連携した活動を選ぶ中学生の割合が低く、とても残念に感じた。
- 「地域と連携した活動が充実している」の割合が低かったのは、高校は市町や地域を越えて通学する生徒も多く、地元地域を探究するというイメージが湧かなかつたからではないか。
- 小中学校においても地域と密着した教育活動に取り組んでおり、「高校選びで重視すること」ではなく、学校で大切だと思う教育活動は何かと問えば、地域と連携した学びや人権教育はもっと高い割合を示すはずである。
- 高校において1学年1学級規模となると、開設できる科目数が限られるなど、多様な学びを提供することが難しくなる。それにもかかわらず、アンケートでは「1学級」を希望する回答が想像以上に多かつたことに驚いている。
- クロス集計の結果から、「高校で希望する学級数」への回答は、高校での学びをイメージした回答というよりは、「在籍する中学校の学級数」が影響したのではないかと推察される。
- 「将来就きたい仕事」で、多種多様な職業を志している結果をふまえると、中学生が将来を見据えた高校や学科の選択ができるよう、学力だけでなく、キャリア教育をさらに充実させることが必要である。こうしたことをふまえて、今後の高校の学びと配置のあり方についての議論につなげていく必要があると感じた。

≪「令和4～6年度の松阪協議会における協議の小まとめ（案）」について≫

（「これまでの経緯」等について）

- 「これまでの経緯」に、協議の過程で大切にしてきた「子どもの人権」や「子どもたちの学び」に関する文言を書き加えてはどうか。
- 松阪地域における県立高校の学びの選択肢や規模を議論する上で、私立高校の存在は避けて通れない。「松阪地域の状況」には、私立高校の状況も含めて記載する必要があるのではないかと。

（学校規模について）

- アンケート結果から、子どもたちは高校選びで部活動を重視しており、そのニーズをかなえるためには、一定の学校規模があったほうがよい。
- 学校規模については、より丁寧な議論が必要であるが、多様な教育課程の編成や、それを可能とする教員数を確保する観点から、学校によっては8学級や6学級を下回らないといったことを明記したほうがよいのではないかと。
- 多様な選択科目の開設には、相当数の教員が必要であるとともに、学校行事や部活動などの充実のためにも、一定の学校規模があったほうがよい。望ましい学校規模については丁寧に議論し、理由とともに「協議のまとめ」に記載していく必要がある。
- 総学級数の減少が見込まれる中、1校あたりの学級数を確保しようとする、現在ある学校数の維持は難しくなる。「一定の統合は避けられない」という声も多くあることから、学級数と学校数のバランスに留意して、検討を進める必要がある。
- 生徒や保護者が期待している社会性や協調性を育むには、ある程度の学校規模が必要ではあるが、通学のしやすさを重視する回答も多いことから、交通の利便性や通学費用も考慮して、どの場所に統合するかなどを慎重に議論する必要がある。
- 統合についての検討にあたっては、「統合は避けるべき」と「一定の統合は避けられない」を選択したどちらの保護者にも共通する「子どもたちの学びの選択肢や特色のある学びの維持」を望む意見を大切にすることが必要である。

（学びの選択肢について）

- 多様な学びや学習形態を展開する私立の通信制高校への進学者数が増加していることから、県立高校においても通信制課程や定時制課程を含めた学びの改革についての議論が必要なのではないかと。
- 増加している不登校の子どもたちの進路も考えて、当地域の高校の配置のあり方を考えていきたい。不登校に特化して子どもたちの学びを支える小規模校が、当地域にあってもよいのではないかと。
- 専門学科の学びの選択肢の維持については、農業・工業・商業などの枠にとらわれず、学科を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論を進めたい。

松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況

資料 2

(1) 令和7年3月卒・現中3

学校名	学科・コース	入学定員	R6.12時点の進学者希望者数		前期選抜等				後期選抜				追検査・再募集		
			定員との差	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	日程			日程			
松 阪	普通	200	163	▲ 37	-	-	-	-	200	後期選抜出願書類受付 2月21日～26日 後期選抜志願変更書類受付 3月3日～5日 後期選抜検査 3月10日 合格者の発表 3月17日				後期選抜追検査 ・再募集検査 3月21日 合格者の発表 3月25日	
	理数	80	186	106	40	189	4.73								
	学校計	280	349	69	40	189	4.73								
松阪工業	機械	40	48	8	20	47	2.35								
	電気工学	40	32	▲ 8	20	29	1.45								
	工業化学	40	34	▲ 6	20	40	2.00								
	繊維デザイン	40	56	16	40	54	1.35	-							
	自動車	40	66	26	20	61	3.05								
	学校計	200	236	36	120	231	1.93								
松阪商業	総合ビジネス科	120	115	▲ 5	60	116	1.93								
	国際ビジネス科	40	32	▲ 8	20	34	1.70								
	学校計	160	147	▲ 13	80	150	1.88								
飯 南	総合学科	80	72	▲ 8	40	60	1.50								
	学校計	80	72	▲ 8	40	75	1.50								
相 可	普通	80	102	22	24	92	3.83								
	生産経済	40	46	6	20	43	2.15								
	環境創造	40	57	17	20	53	2.65								
	食物調理	40	41	1	40	39	0.98	-							
	学校計	200	246	46	104	227	2.18								
昴学園	総合学科	80	29	▲ 51	80	75	0.94	-							
	学校計	80	29	▲ 51	80	75	0.94	-							
松阪地域（全日制）計		1,000	1,079	79	464	932	2.01								

※「R6.12時点の進学者希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

(2) 令和6年3月卒・現高1

学校名	学科・コース	入学定員	R5.12時点の進学者希望者数		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			定員との差	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
松 阪	普通	200	136	▲ 64	-	-	-	-	200	167	0.84	200	-	-	-	201	0
	理数	80	192	112	40	191	4.78	40	40	115	2.88	40	-	-	-	81	0
	学校計	280	328	48	40	191	4.78	40	240	282	1.18	240	-	-	-	282	0
松阪工業	機械	40	48	8	20	48	2.40	22	18	20	1.11	18	-	-	-	39	▲ 1
	電気工学	40	48	8	20	49	2.45	22	18	24	1.33	18	-	-	-	40	0
	工業化学	40	31	▲ 9	20	31	1.55	22	18	15	0.83	18	-	-	-	40	0
	繊維デザイン	40	43	3	40	43	1.08	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	自動車	40	47	7	20	46	2.30	22	18	19	1.06	18	-	-	-	40	0
	学校計	200	217	17	120	217	1.81	128	72	78	1.08	72	-	-	-	199	▲ 1
松阪商業	総合ビジネス科	120	131	11	60	128	2.13	66	54	60	1.11	54	-	-	-	121	0
	国際ビジネス科	40	37	▲ 3	20	37	1.85	22	18	16	0.89	18	-	-	-	40	0
	学校計	160	168	8	80	165	2.06	88	72	76	1.06	72	-	-	-	161	0
飯 南	総合学科	80	63	▲ 17	40	52	1.30	55	25	21	0.84	21	4	6	4	80	0
	学校計	80	63	▲ 17	40	63	1.30	55	25	21	0.84	21	4	6	4	80	0
相 可	普通	80	89	9	24	83	3.46	27	53	59	1.11	53	-	-	-	80	0
	生産経済	40	39	▲ 1	20	37	1.85	22	18	15	0.83	17	1	0	0	39	▲ 1
	環境創造	40	31	▲ 9	20	30	1.50	22	18	9	0.50	10	8	2	2	34	▲ 6
	食物調理	40	44	4	40	44	1.10	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	学校計	200	203	3	104	194	1.87	111	89	83	0.93	80	9	2	2	193	▲ 7
昴学園	総合学科	80	47	▲ 33	80	74	0.93	73	-	-	-	-	7	1	1	74	▲ 6
	学校計	80	47	▲ 33	80	74	0.93	73	-	-	-	-	7	1	1	74	▲ 6
松阪地域（全日制）計		1,000	1,026	26	464	893	1.92	495	498	540	1.08	485	20	9	7	989	▲ 14

※入学者数と合格者の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため

※「R5.12時点の進学者希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

令和4～6年度の協議(主な意見)

1 これまでの主な意見 (○:R4① ◇:R5① ◎:R5② ▽:R6① ☆:R6②)

(1) 子どもたちに育みたい資質・能力

- 地域の小中高が連携することに加え、家庭・地域が一緒になって教育活動に取り組むことが、将来の松阪地域を担う子どもたちの育成につながっていく。
- 生徒が減少していく中であっても、この地域で学び就職する人が増えるよう、高校での学びの選択肢をできるかぎり多く維持するとともに、より実践的なキャリア教育に取り組んでもらいたい。
- 県外からの入学生が増加している昴学園高校の事例から考えると、県外から三重に来てもらい、三重で活躍できる人材を育てるという考え方もあるのではないか。
- ◇ 生成AI技術の進歩など、急速に社会が変化する中で、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材をいかに育てていくかが課題となる。生徒が興味・関心のある分野を深く学び、得意分野をさらに伸ばせるようにしたい。
- ◇ 先が見えないコロナ禍を過ごした子どもたちだからこそ、自ら課題を見つけて向かっていくという「未来を切り拓く力」が大切である。
- ◇ コミュニケーション能力や課題解決能力に加え、答えを見つけるだけではなく、問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力も必要である。
- ◇ 多様性の時代には、一つの問題に対してさまざまな考え方ができるよう、多面的な学びが重要となる。また、未来を切り拓く力を育むためには、多様な学びの選択肢の中から、主体的に選択できるようにすることも大切である。
- ◇ 子どもたちの視点を大切にして、子どもたち一人ひとりが自分のよさを伸ばすことができる環境をつくるのが大切である。
- ◇ 将来の進路や興味・関心より、偏差値で高校を選択する傾向も見られる。高校進学に向けた小中学校でのキャリア教育が大切である。
- ◇ 指示がないと意欲的に仕事ができない若手職員が年々増えている。このことから学生時代に子どもの自主性を伸ばしていくことが重要であると感じる。
- ◇ 不登校を経験した生徒の受け皿に加え、入学後に不登校にならないようなケアも大切である。
- ◎ 他地域の高校や県外の大学へ進学したとしても、将来この地域を愛し、この地域に戻ってきたいと思ってもらえるよう、小中高をとおり地域に根差した学びを大切にしたい。
- ◎ 求人を出してもなかなか応募がないという現状があり、地域における人材育成の視点に加え、労働条件を含めた魅力ある職場づくりも必要であると感じている。
- ◎ 中学生に、なぜ大学へ進学するのかを考えさせたり、地元の高校から地域の企業に就職することのよさを伝えたりしていく必要がある。小中高が連携して、こうした人生設計につながるキャリア教育に取り組むことが大切である。
- ▽ 松阪市では今年度より全ての小中学校でコミュニティ・スクールを導入し、地域に根差した学校をめざしている。その中で地域を大切にする心や地域を愛する心を育てたい。
- ▽ 自分の子どもには漠然と大学へ進学してほしいと考えているが、最終的には地元に住んでもらいたいので、地域への愛着心を育むための学びの必要性については、保護者として大変共感できる。

- ☆ 「将来就きたい仕事」で、多種多様な職業を志している結果をふまえると、中学生が将来を見据えた高校や学科の選択ができるよう、学力だけでなく、キャリア教育をさらに充実させることが必要である。こうしたことをふまえて、今後の高校の学びと配置のあり方についての議論につなげていく必要があると感じた。

- 将来の松阪地域を担う子どもたちの育成が大切
- ◇興味・関心のある分野を深く学び、得意分野をさらに伸ばすことが必要
- ◇夢や希望をかなえるため、自らの可能性を發揮し、あらゆる場面であきらめずにチャレンジする「未来を切り拓く力」が必要
- ◇コミュニケーション能力や課題解決能力
- ◇問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力
- ◇多様な学びの選択肢の中から、主体的に選択する力
- ◇高校進学に向けた、小中学校でのキャリア教育
- ◇学生時代における子どもの自主性
- ◎地域への愛着心を育むために、地域に根差した学びが必要
- ▽地域を大切に作る心や地域を愛する心

(2) 松阪地域の中学生の進路状況について

- ◎ 松阪地域には多様な学科がバランスよく配置されているにもかかわらず、中学校卒業者の約3分の1が他地域の全日制高校へ進学している。その要因を分析し、各高校・学科の魅力を高め、それを発信することができれば、地元の高校へ進学する生徒の割合も増えるのではないかと。
- ◎ 学校以外の習い事でできた友人と同じ学校に行きたいという理由で、他地域の高校へ進学する生徒も一定数いるようだ。保護者としても、子どもが希望するなら高校段階では地域を越えて交流させてやりたいという思いがあるのではないかと。
- ◎ 松阪地域の高校卒業者の約6割が大学、短大、専門学校等へ進学していることや、自分が純粋に行きたい高校を記入していると思われる中学校3年生の7月段階の進路希望状況を勘案すると、松阪地域では普通科の定員が不足しており、その結果として私立高校や他地域の高校へ進学しているのではないかと。
- ▽ 人手不足が叫ばれる中、高校にも毎年たくさんの求人がある。これまで以上に地域の企業と密に連絡を取り合い、マッチングを進めていかないと、地域へ生徒を送り出せなくなってしまうのではないかと懸念している。

- ◎各高校・多様な学科の特色化・魅力化の向上とその情報発信により、地元高校への進学割合を高める
- ◎地域の中学生のニーズや現状を分析し、配置のあり方を検討する
- ▽地域の企業との連携

(3) 再編を検討するうえで大切にしたいこと

- 地域と連携した学びやICTを活用した学習などを取り入れながら、学校の活性化や魅力ある学校づくりにつなげてもらいたい。
- 地域の少子化や教育的ニーズの多様化が進む中、小学校から高校までの一貫した学びで子どもたちを育むことを意識しながら、松阪地域全体を見通したこれからの高校の学びと配置のあり方を協議していくことが大切である。
- 15年前と比べ、生徒数は減っているものの、不登校傾向にある生徒や発達に課題がある生徒、外国につながりを持つ生徒の割合が増えてきており、15年先を見据え、高校において求められる学びを検討する際には、これらの課題に柔軟に対応していくことが大切である。
- 松阪地域は、多様な学科や特色ある学びを持つ県立高校に加え、魅力ある私立高校があるなど、高校選択に関して恵まれた環境にある。地域の生徒が地域の高校へ進学するためには、多様な学科の維持や高校の魅力化が必要である。
- 高校魅力化の重要な要素でもある部活動の活性化という視点から考えると、高校には一定規模が必要である。
- ◇ 松阪地域は、私立高校や通信制課程を含め、普通科、専門学科、総合学科がバランスよく配置されている。今後、高校の配置を検討するにあたっては、近隣地域との流入・流出状況もふまえ、学びの選択肢が保たれるよう総合的に考えていきたい。
- ◇ 学級規模に関わらず、どの高校でも学校の特色に応じたきめ細かな教育が行われているが、生徒の社会性を育むには、経験上一定の学級規模があったほうが望ましいと感じる。
- ◇ 学級規模が小さくなれば教員数が減り、多様な選択科目や部活動の維持が難しくなる。高校の学びや配置のあり方を考える上では、スケールメリットも重要な要素である。
- ◎ 多様な選択肢があったとしても、現実的な合格可能性、交通の利便性や通学費用などを考えて、隣接地域の高校を選択する生徒も多い。
- ◎ 大学等に進学するなら普通科でなければというのではなく、専門学科から大学等へ進学する生徒も多いことを、中学生にしっかりと周知していく必要がある。
- ◎ 目標に向かって粘り強く取り組む力や、他者と協働する力などの非認知能力を育成することが大切になっており、そういった学びの実現には一定の学校規模があるほうが望ましい。
- ◎ 一般に小規模校に存在するとされているメリットは、「体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる」といったものを除いて、概ね大規模校にも存在している。一方で、学級減による教員数の減少は、教科指導や部活動など学校運営全体に大きな影響を与えることとなる。
- ◎ 専門学科の学びの選択肢を維持するために、近年は主に普通科の定員を減じてきたが、これ以上松阪地域の県立高校の普通科の定員を減らすべきではない。普通科と専門学科・総合学科のバランス、公立と私立のバランスをしっかりとりながら、慎重に議論を進めてもらいたい。
- ◎ いつ頃までに、当協議会としての方向性をとりまとめる必要があるのか。
⇒ (事務局) 松阪地域では、令和11年度に大きな中学校卒業生数の減少が見込まれているので、統合を含めた再編を検討するのであれば、中学生の進路選択への影響等を勘案すると、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性をとりまとめる必要がある。
- ▽ 高い教育効果を得るためには、一定の学校規模を維持することが必要である。また、地域の子どもの地域で育てるためには、現在のバランスのよい学びの配置を維持することも必要である。
- ▽ 学級数の減少が見込まれる中、現在の全ての専門学科を残すことは不可能である。今後、学級数を減じながらも学びの選択肢は減らさないような対応を、具体的に検討する必要がある。

- ▽ 地域に子どもたちのニーズにあった多様な学びの選択肢を残すことで、当地域の高校への進学率が高まるのではないかな。
- ☆ アンケート結果から、子どもたちは高校選びで部活動を重視しており、そのニーズをかなえるためには、一定の学校規模があったほうがよい。
- ☆ 学校規模については、より丁寧な議論が必要であるが、多様な教育課程の編成や、それを可能とする教員数を確保する観点から、学校によっては8学級や6学級を下回らないといったことを明記したほうがよいのではないかな。
- ☆ 多様な選択科目の開設には、相当数の教員が必要であるとともに、学校行事や部活動などの充実のためにも、一定の学校規模があったほうがよい。
- ☆ 総学級数の減少が見込まれる中、1校あたりの学級数を確保しようとする、現在ある学校数の維持は難しくなる。「一定の統合は避けられない」という声も多くあることから、学級数と学校数のバランスに留意して、検討を進める必要がある。
- ☆ 増加している不登校の子どもたちの進路も考えて、当地域の高校の配置のあり方を考えていきたい。不登校に特化して子どもたちの学びを支える小規模校が、当地域にあってもよいのではないかな。
- ☆ 専門学科の学びの選択肢の維持については、農業・工業・商業などの枠にとらわれず、学科を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論を進めたい。
- ☆ 統合についての検討にあたっては、「統合は避けるべき」と「一定の統合は避けられない」を選択したどちらの保護者にも共通する「子どもたちの学びの選択肢や特色のある学びの維持」を望む意見を大切にすることが必要。

①学校規模について

- 部活動の活性化という視点から考えると、高校には一定規模が必要
- ◇生徒の社会性を育むには、経験上一定の学級規模があったほうが望ましい
- ◇高校の学びや配置のあり方を考える上では、教員数の確保や多様な選択科目や部活動の維持を視点としたスケールメリットも重要
- ◎教科指導や部活動などの学校運営については、学級減に伴う教員数の減少による影響も考慮する必要がある
- ☆不登校に特化して子どもたちの学びを支える小規模校の配置

②学びの選択肢について

- 高校での学びの選択肢をできるかぎり多く維持することが必要
- ◇近隣地域との流入・流出状況をふまえた、学びの選択肢の維持
- ▽現在の全ての専門学科を残すことは不可能。今後、学級数を減じながらも学びの選択肢は減らさない対応を具体的に検討することが必要
- ▽現在のバランスのよい学びの配置を維持
- ☆学科を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論が必要

③その他

- 松阪地域全体を見通した高校の学びと配置のあり方を協議することが必要
- 地域の生徒が地域の高校へ進学するためには、多様な学科の維持や高校の魅力化が必要
- ◎学科のバランス、公立と私立のバランスを意識しながら、慎重に議論する必要がある
- ◎令和11年度の生徒減による学級減への対応については、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性を出す必要がある
- ☆ 学級数と学校数のバランスに留意して、検討を進める必要がある

(4) 今後の協議に向けて

- 15 年先までに松阪地域で県立高校が 10 学級程度も減少するのであれば、現在地域にある専門学科の統廃合も検討していく必要がある。
- 15 年先を見据えた高校の学びと配置のあり方を検討していく際には、変化の激しい時代における子どもたちの進路実現のため、これまでの価値観だけで考えるのではなく、子どもたちを軸にした教育課程の改革などについて議論していく必要がある。
- 高校配置のあり方を考えるにあたっては、各学校の学びの内容や特色、地域における様々な教育活動等を共有しながら協議を進めてはどうか。
- 松阪地域における過去の高校統合の事例をはじめ、今年度他地域の協議会で検討された統合や募集停止に関する意思決定の過程、及び学びの保障の方向性等を参考にしながら、協議を進めるのがよいのではないか。
- 学校の小規模化が進むと教員数が少なくなるため、生徒の幅広い学びの選択肢を確保することが難しくなる。協議会では教員定数や教育予算なども考慮しながら、高校配置のあり方について協議を進めていきたい。
- 地域から高校がなくなることは、地域の人々にとって大きな出来事である。15 年先の生徒減の現実を受け止め、協議会でしっかり議論していく必要がある。
- 中学生や保護者の意見をアンケート調査で聞いてはどうか。その際、保護者の中でも様々な意見があるため、質問内容だけでなく世代別などに集計するなどの工夫も考えられる。子どもたちの思いを取り入れながら協議会の議論を進めていきたい。
- 専門学科の高校では資格取得も含めた専門教育を進めているが、その中で生徒たちが何に魅力を感じ、興味を持ったのかなどを把握したうえで高校の学びについて検討していきたい。
- 明和町は松阪市と伊勢市の間に位置しており、松阪市内だけでなく伊勢志摩地域への進学も多い。明和町内にも高校があれば小中高一貫した教育にも取り組みやすくなる。
- 大台町からは通学に時間はかかるものの、松阪地域において幅広く高校を選択することができる。この教育環境が維持できるよう議論を進めていきたい。
- 生徒数が減少する中、地域の高校へ進学する生徒を確保することが大事であり、そのためには高校側もより積極的な情報発信が必要である。
- この地域の豊かな学びを保障するために、統合ありきではなく、幅広い視野を持って協議を進めていきたい。
- ◇ 県や松阪地域がめざす 15 年先の社会の姿をふまえ、どういった人材の育成が必要なのかの議論を進めたい。
- ◇ 子どもたちをメインとした議論を進めるためにも、アンケート調査が必要ではないか。
- ◇ 今後の議論の参考とするため、他地域の専門高校や協議会の状況が分かる資料があるとよい。
- ◇ 学びの環境をつくるのは大人の責任である。その際には、子どもに寄り添うことや、子どもたちの思いを大切にしながら議論を進めたい。
- ◇ 松阪地域外へ進学している現状がある中、この地域の子どもたちが、この地域で学べる状況が作られるよう、子どもたちの思いや願いが叶えられる地域の高校の魅力をさらに高めていきたい。
- ◇ 学科の配置については、今後進展が予想される業種や職種をふまえて議論を進めたい。
- ◇ ICT の発達等により働き方が多様化し、特別な支援を必要とする生徒の卒業後の受け皿が拡大していることをふまえ、特別支援学校だけでなく、高校においても、特性を持った生徒が自分の得意なことを伸ばすことのできる環境整備が必要である。

- ◇ 受験生は、希望よりも学力的に入りやすい高校を選択したり、早く進路を決めたりする傾向が見られる。また、コロナ禍で増えた不登校の生徒の多くが、県外の通信制高校に進学する状況も見られる。これらの状況もふまえ、地域に根差した教育を推進する観点から、高校の魅力化について考えていきたい。
- ◇ 松阪地域は他地域と比べて私立高校の定員の比率が高い。当地域全体の高校のあり方を検討する際には、県立高校だけでなく、私立高校を含めて議論すべきである。
- ◎ 中学生向けの進路説明会では、大学合格実績や就職先だけではなく、小規模校で独自に行っている特色ある教育や、どのような学びができるのかをもっとアピールするべきである。
- ▽ 企業説明会や、企業と高校が連携した取組を進めることにより、地元企業を知ってもらう機会が増えるとよい。
- ☆ 生徒や保護者が期待している社会性や協調性を育むには、ある程度の学校規模が必要ではあるが、通学のしやすさを重視する回答も多いことから、交通の利便性や通学費用も考慮して、どの場所に統合するかなどを慎重に議論する必要がある。
- ☆ 多様な学びや学習形態を展開する私立の通信制高校への進学者数が増加していることから、県立高校においても通信制課程や定時制課程を含めた学びの改革についての議論が必要なのではないか。

- 地域にある専門学科の統廃合を検討していく必要がある
- 子どもを軸にした教育課程の改革などについての議論も必要
- 教員定数や教育予算なども考慮しながら協議する必要がある
- ◇中学生や保護者へのアンケート調査で結果を踏まえた議論が必要
- ◇子どもに寄り添い、子どもたちの思いや願いが叶えられるよう地域の高校の魅力を高める必要がある
- ◇当地域全体の高校のあり方を検討する際には、県立高校だけでなく、私立高校を含めて議論
- ◎小規模校で独自に行っている特色ある教育や学びをアピールすべき

松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 生徒を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること (問6)

「通学のしやすさ・距離」(49.3%)、「学校の雰囲気・イメージ」(49.0%)に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(42.4%)、「学びたい学科やコースがある」(39.5%)、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」(35.7%)の順となっている。

(2) 高校に期待する教育 (問8)

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(52.6%)、「基本的な知識が身につく教育」(43.1%)をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(42.0%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(40.1%)を期待している。

(3) 希望する学級数について (問10)

多い順に「4～6学級」(42.1%)、「2～3学級」(36.3%)、「1学級」(18.0%)、続いて「7学級以上」(3.7%)となっている。

(4) 通学時間について (問11)

多い順に「60分以内まで」(51.1%)、「30分以内まで」(28.9%)、「90分以内まで」(13.5%)、「120分以内まで」(4.1%)、「121分以上」(2.3%)となっている。

(5) 将来就きたい仕事について (問12)

「まだ決まっていない、わからない」(40.4%)が多く、「健康・スポーツ関係(インストラクター、選手・監督など)」(13.9%)、「医師、看護師、薬剤師など」(11.4%)と「理容、美容関係」(11.4%)と続いている。

(6) 将来生活する場所について (問14)

「まだ決まっていない、わからない」(32.5%)が最も多く、続いて、「県外」(20.6%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(18.7%)、「地元(現在住んでいる市町)」(12.3%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること（問6）

「学びたい学科やコースがあること」（73.3%）に続いて、「通学のしやすさ・距離」（64.4%）、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」（59.4%）に続いて、「進学・就職の実績」（39.5%）、「確かな学力を身につける授業が充実していること」（39.2%）、となっている。

(2) 高校に期待する教育（問8）

「自ら学び続ける力が身につく教育」（61.0%）をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」（60.7%）、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」（53.6%）、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」（49.0%）を期待している。

(3) 希望する学級数について（問10）

多い順に「4～6学級」（45.4%）、「2～3学級」（36.9%）、「1学級」（11.9%）、続いて「7学級以上」（5.8%）となっている。

(4) 通学時間について（問11）

多い順に「60分以内まで」（66.4%）、「30分以内まで」（24.1%）、「90分以内まで」（8.3%）、「120分以内まで」（0.9%）、「121分以上」（0.2%）となっている。

(5) 将来生活する場所について（問12）

「本人の希望次第」（71.2%）が最も多く、続いて、「地元（現在住んでいる市町）」（9.1%）、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」（6.8%）となっている。

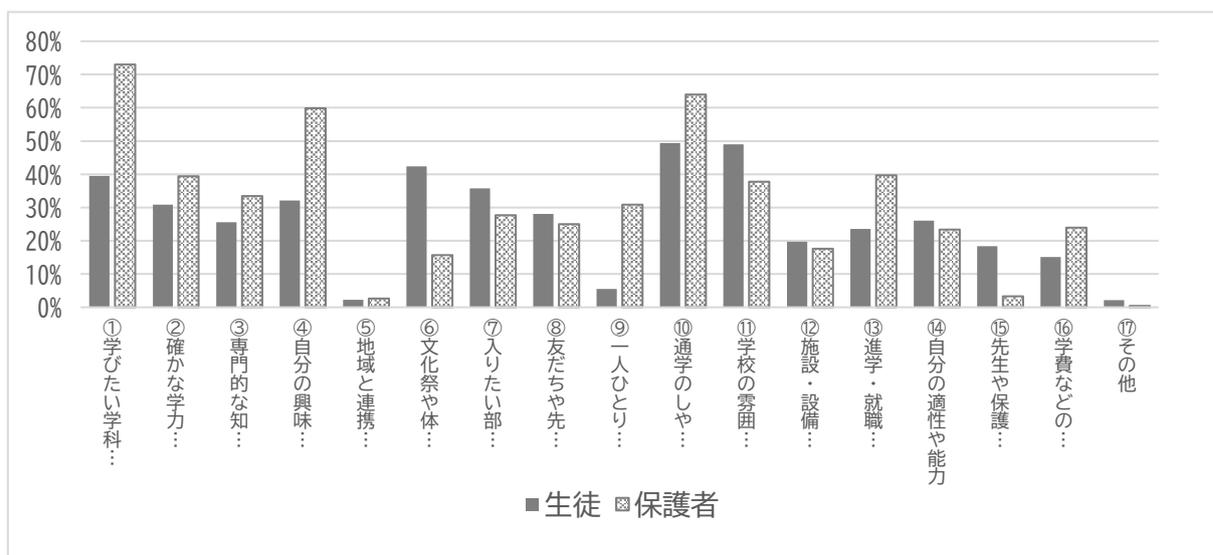
(6) 今後の松阪地域の県立高校のあり方について（問13）

今後の松阪地域の高校については、「一定の統合は避けられない」（68.4%）が最も多く、続いて「統合は避けるべき」（27.0%）、「積極的に統合を進めるべき」（4.5%）となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較

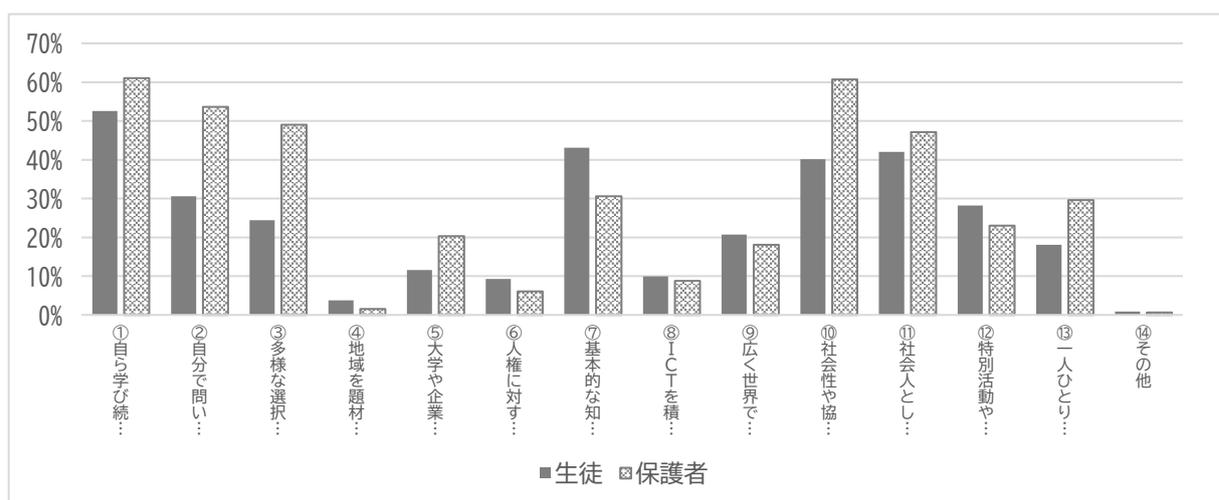
(1) 高校選びで重視すること (回答は6つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,851人)	
		○数字	割合	○数字	割合
① 学びたい学科やコースがある	④	576	39.5%	①1,357	73.3%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑦	450	30.8%	⑤ 725	39.2%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑩	373	25.6%	⑦ 615	33.2%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑥	468	32.1%	③1,100	59.4%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑯	33	2.3%	⑯ 51	2.8%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③	618	42.4%	⑭ 294	15.9%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑤	521	35.7%	⑨ 522	28.2%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑧	409	28.0%	⑩ 461	24.9%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮	81	5.6%	⑧ 589	31.8%
⑩ 通学のしやすさ・距離	①	720	49.3%	②1,192	64.4%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	②	715	49.0%	⑥ 708	38.2%
⑫ 施設・設備の充実	⑫	288	19.7%	⑬ 310	16.7%
⑬ 進学・就職の実績	⑪	344	23.6%	④ 731	39.5%
⑭ 自分の適性や能力	⑨	380	26.0%	⑫ 434	23.4%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬	268	18.4%	⑮ 63	3.4%
⑯ 学費などの経費負担	⑭	220	15.1%	⑪ 444	24.0%
⑰ その他	⑰	31	2.1%	⑰ 11	0.6%



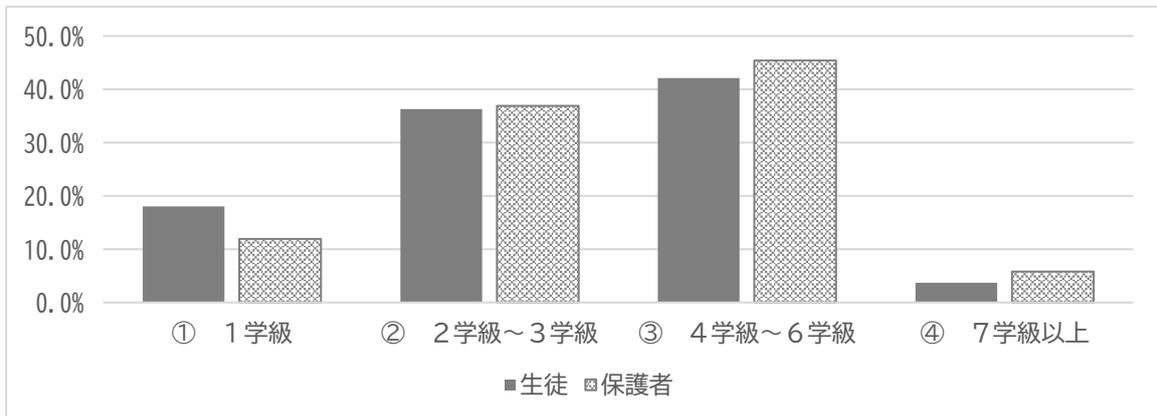
(2) 高校に期待する教育 (回答は5つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象		生徒 (1,459人)		保護者 (1,851人)	
① 自ら学び続ける力が身につく教育	①	767	52.6%	①	1,129	61.0%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑤	447	30.6%	②	993	53.6%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑦	356	24.4%	④	907	49.0%
④ 地域を題材として学ぶ教育	⑬	56	3.8%	⑬	28	1.5%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	⑩	169	11.6%	⑨	376	20.3%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育	⑫	135	9.3%	⑫	113	6.1%
⑦ 基本的な知識が身につく教育	②	629	43.1%	⑥	567	30.6%
⑧ ICTを積極的に活用する教育	⑪	145	9.9%	⑪	163	8.8%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑧	302	20.7%	⑩	335	18.1%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	④	585	40.1%	②	1,123	60.7%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③	613	42.0%	⑤	871	47.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑥	411	28.2%	⑧	426	23.0%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育	⑨	264	18.1%	⑦	548	29.6%
⑭ その他	⑭	13	0.9%	⑭	11	0.6%



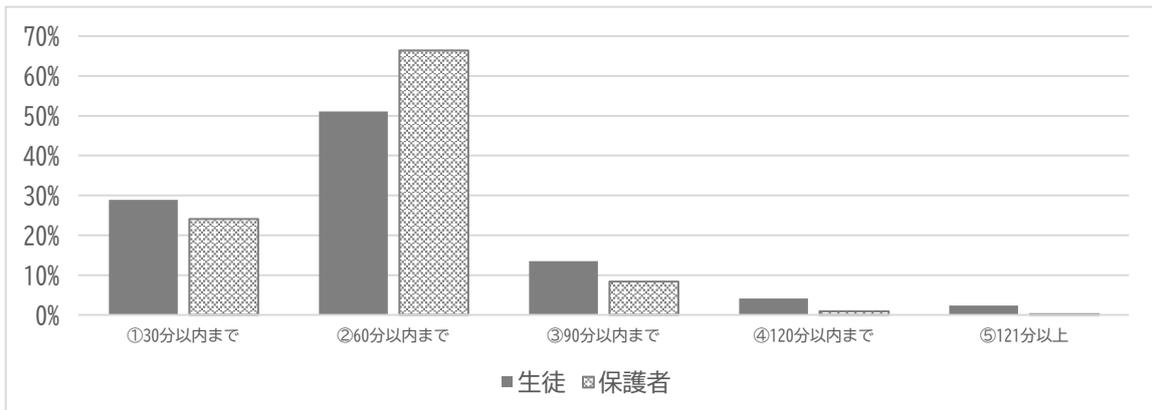
(3) 1学年あたりの学級数 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,852人)	
		人数	割合	人数	割合
①	1学級 (40人)	③ 262	18.0%	③ 220	11.9%
②	2学級~3学級 (80人~120人)	② 529	36.3%	② 684	36.9%
③	4学級~6学級 (160人~240人)	① 614	42.1%	① 841	45.4%
④	7学級以上 (280人~)	④ 54	3.7%	④ 107	5.8%



(4) 進学したい高校までの通学時間 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,850人)	
		人数	割合	人数	割合
①	30分以内まで	② 422	28.9%	② 446	24.1%
②	60分以内まで	① 746	51.1%	① 1,229	66.4%
③	90分以内まで	③ 197	13.5%	③ 154	8.3%
④	120分以内まで	④ 60	4.1%	④ 17	0.9%
⑤	121分以上	⑤ 34	2.3%	⑤ 4	0.2%



4 生徒と保護者の回答の比較より

(1)「高校選びで重視すること(17個の選択肢から6つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位6つに選択された項目のうち、共通するもの

① 学びたい学科やコースがある

生徒4位 576人(39.5%)、保護者1位 1,357人(73.3%)

④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒6位 468人(32.1%)、保護者3位 1,100人(59.4%)

⑩ 通学のしやすさ・距離

生徒1位 720人(49.3%)、保護者2位 1,192人(64.4%)

⑪ 学校の雰囲気・イメージ

生徒2位 715人(49.0%)、保護者6位 708人(38.2%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位6つに選択された項目

② 確かな学力を身につける授業が充実している

生徒7位 450人(30.8%)、保護者5位 725人(39.2%)

⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒3位 618人(42.4%)、保護者14位 294人(15.9%)

⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒5位 521人(35.7%)、保護者9位 522人(28.2%)

⑬ 進学・就職の実績

生徒11位 344人(23.6%)、保護者4位 731人(39.5%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

⑤ 地域と連携した活動が充実している

生徒16位 33人(2.3%)、保護者16位 51人(2.8%)

⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒15位 81人(5.6%)、保護者8位 589人(31.8%)

⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒13位 268人(18.4%)、保護者15位 63人(3.4%)

(2)「高校に期待する教育(14個の選択肢から5つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位5つに選択された項目のうち、共通するもの

① 自ら学び続ける力が身につく教育

生徒1位 767人(52.6%)、保護者1位 1,129人(61.0%)

② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒5位 447人(30.6%)、保護者2位 993人(53.6%)

⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒4位 585人(40.1%)、保護者2位 1,123人(60.7%)

⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒3位 613人(42.0%)、保護者5位 871人(47.1%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位5つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒7位 356人(24.4%)、保護者4位 907人(49.0%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒2位 629人(43.1%)、保護者6位 567人(30.6%)

〈参考〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒13位 56人(3.8%)、保護者13位 28人(1.5%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒12位 135人(9.3%)、保護者12位 113人(6.1%)

(3) 「1学年あたりの学級数(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「4～6学級」(生徒42.1%、保護者45.4%)と最も多く、次いで「2～3学級」(生徒36.3%、保護者36.9%)、「1学級」(生徒18.0%、保護者11.9%)と続いている。

(4) 「進学したい高校までの通学時間(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「60分以内まで」(生徒51.1%、保護者66.4%)、「30分以内まで」(生徒28.9%、保護者24.1%)と続き、さらに「90分以内まで」(生徒13.5%、保護者8.3%)、「120分以内まで」(生徒4.1%、保護者0.9%)となっている。

松阪地域の中学校卒業生進路先の推移

(R6第1回協議会資料)

資料5

(1)松阪地域(1市3町)の状況

市町	卒業年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)									地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高专	その他 県立・ 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計								
1市3町 の合計	5年度 (R6.3卒)	1,856	207	151	104	80	130	14	686	307	307	993	140	264	219	42	665	198	1,856
	4年度 (R5.3卒)	1,934	239	150	107	68	135	17	716	354	354	1,070	168	235	231	46	680	184	1,934
	3年度 (R4.3卒)	1,844	209	137	104	79	125	22	676	362	362	1,038	155	241	213	39	648	158	1,844

※地域外：松阪地域の全日制高校(県立・私立)以外の高校・高专への進学者数
 ※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

(2)市町別の状況

	卒業年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)									地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高专	その他 県立・ 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計								
松阪市	5年度 (R6.3卒)	1,467	170	127	81	66	83	2	529	280	280	809	62	241	151	36	490	168	1,467
	4年度 (R5.3卒)	1,457	179	127	77	57	84	6	530	290	290	820	73	223	149	35	480	157	1,457
	3年度 (R4.3卒)	1,386	156	114	73	63	70	4	480	309	309	789	65	225	143	30	463	134	1,386
多気町	5年度 (R6.3卒)	148	16	9	4	14	34	3	80	13	13	93	19	5	14	5	43	12	148
	4年度 (R5.3卒)	199	22	5	18	11	37	2	95	28	28	123	25	2	29	7	63	13	199
	3年度 (R4.3卒)	183	18	4	16	16	37	2	93	21	21	114	24	7	22	6	59	10	183
明和町	5年度 (R6.3卒)	191	15	12	12	0	4	1	44	10	10	54	54	17	48	1	120	17	191
	4年度 (R5.3卒)	218	28	13	8	0	4	1	54	24	24	78	67	10	48	2	127	13	218
	3年度 (R4.3卒)	195	22	13	13	0	6	1	55	20	20	75	59	8	39	3	109	11	195
大台町	5年度 (R6.3卒)	50	6	3	7	0	9	8	33	4	4	37	5	1	6	0	12	1	50
	4年度 (R5.3卒)	60	10	5	4	0	10	8	37	12	12	49	3	0	5	2	10	1	60
	3年度 (R4.3卒)	80	13	6	2	0	12	15	48	12	12	60	7	1	9	0	17	3	80

※地域外：松阪地域の全日制高校(県立・私立)以外の高校・高专への進学者数
 ※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

松阪地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

		R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3
		卒業生数	卒業生数	卒業生数	卒業生数	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
松阪市	卒業生数	1,390	1,386	1,457	1,467	1,444	1,399	1,440	1,335	1,239	1,208	1,254	1,219	1,103
	前年度対比		-4	71	10	-23	-45	41	-105	-96	-31	46	-35	-116
	R6.3対比					-23	-68	-27	-132	-228	-259	-213	-248	-364
多気郡	卒業生数	411	458	477	389	435	426	363	419	347	403	372	385	387
	前年度対比		47	19	-88	46	-9	-63	56	-72	56	-31	13	2
	R6.3対比					46	37	-26	30	-42	14	-17	-4	-2
小計	卒業生数	1,801	1,844	1,934	1,856	1,879	1,825	1,803	1,754	1,586	1,611	1,626	1,604	1,490
	前年度対比		43	90	-78	23	-54	-22	-49	-168	25	15	-22	-114
	R6.3対比					23	-31	-53	-102	-270	-245	-230	-252	-366
県内合計	卒業生数	15,777	16,244	16,055	15,890	15,712	15,488	15,241	14,769	14,404	14,000	14,049	13,442	12,792
	前年度対比		467	-189	-165	-178	-224	-247	-472	-365	-404	49	-607	-650
	R6.3対比					-178	-402	-649	-1,121	-1,486	-1,890	-1,841	-2,448	-3,098

令和6年5月1日 教育政策課調べ

【県立高校(全日制)】

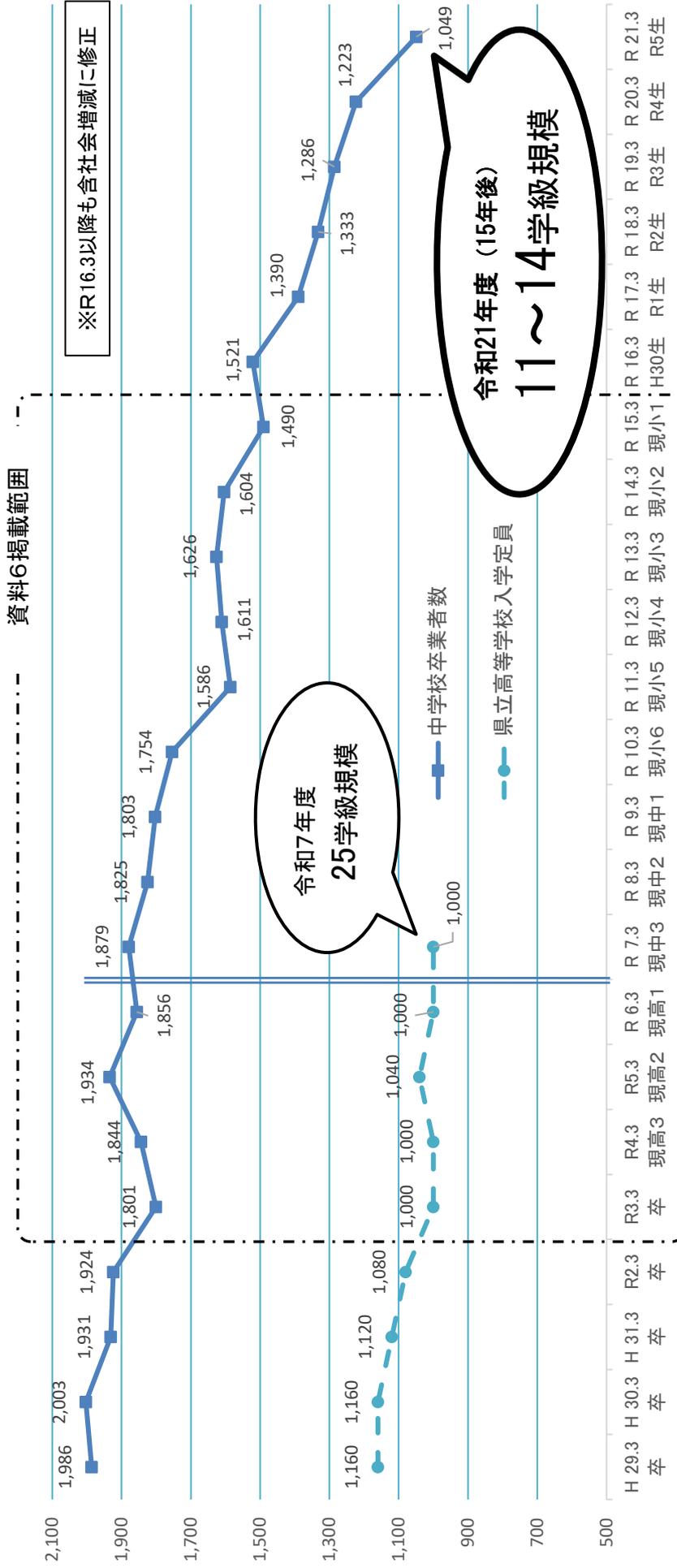
松阪地域	入学定員 (学級数)	1,000 (25)	1,000 (25)	1,040 (26)	1,000 (25)	1,000 (25)
	欠員数※	29	30	17	14	-
県内合計	入学定員 (学級数)	10,760 (271)	10,880 (274)	10,640 (268)	10,440 (262)	10,240 (257)
	欠員数※	325	334	342	225	-

※欠員数は、学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

【私立高校(全日制)】

三重	入学定員	530	540	535	530	530
	入学者数	548	584	563	468	-

松阪地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員の推移と予測



【松阪地域の出生数】

	H29年度 現小1	H30年度 5~6歳	R1年度 4~5歳	R2年度 3~4歳	R3年度 2~3歳	R4年度 1~2歳	R5年度 0~1歳
松阪市	1,159	1,225	1,115	1,089	1,018	979	856
多気郡	323	316	292	264	281	259	209
合計	1,482	1,541	1,407	1,353	1,299	1,238	1,065
予 測	1,490	1,521	1,390	1,333	1,286	1,223	1,049

松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて(令和7年度) (R6第1回協議会資料) 資料8

学校名	入学生数		学科・コース							
	大学科	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8
松阪地域全日課程 県立	松阪高校	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	全25学級 普通科 9 専門学科 12 (工業5) (商業4) (農業2) (家庭1) 総合学科 4
	松阪工業高校	200	工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科			
	松阪商業高校	160	総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科				
	飯南高校	80	総合学科	郷土・環境、介護福祉 総合進学、コンピュータ						
	相可高校	200	普通科 専門学科	普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科			
	昴学園高校	80	総合学科	国際交流 総合スポーツ 美術工芸、生活福祉、環境技術						
三重高校	530	普通科	普通科(進学コース、特進コース、六年制)							
私立										

○定時制課程 県立 松阪工業高校 40人 普通科

○通信制課程 県立 松阪高校 200人 普通科

学校名	入学生数		学科・コース									
	大学科	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8		
伊勢志摩地域全日課程 県立	宇治山田高校	200	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学コース	全29学級 普通科 14 専門学科 14 (工業4) (商業4) (農業2) (家庭1) (福祉1) (水産2) 総合学科 1	
	伊勢高校	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
	伊勢工業高校	160	機械科	機械科	建築科	電気科						
	宇治山田商業高校	160	商業科	商業科	情報処理科	国際科						
	明野高校	160	生産科学科	食品科学科	生活教養科	福祉科						
	南伊勢高校南勢校舎	0										
	南伊勢高校度会校舎	40	普通科									
	鳥羽高校	40	総合学科									
	志摩高校	40	普通科									
	水産高校	80	専門学科	海洋・機関科	水産資源科							
	皇学館高校	315	普通科	普通科(進学コース、特別進学コース)								
	伊勢学園高校	230	普通科	普通科(特別進学コース、選択コース[情報ビジネス・生活デザイン・進学]、看護医療コース)								
	私立											

○定時制課程 県立 伊勢まなび高校 120人 普通科:午前の部40人、午後の部40人、ものづくり工学科40人(夜間)

○通信制課程 私立 英心高校(伊勢本校) 110人 普通科:(全日型、水曜、土曜の各コース)

私立 代々木高校 800人 普通科:(通学コース、通信一般コース等)

○高等専門学校 国立 鳥羽商船高等学校 140人 商船学科(40)、情報機械システム工学科(100)

※大学の普通科には普通科系専門学科を含む

松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和6年3月卒)

(R6第1回協議会資料)

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪高校	普通 理数	250	2	7	1	14	274
		91.2%	0.7%	2.6%	0.4%	5.1%	100.0%
松阪工業高校	工業	26	15	19	129	1	190
		13.7%	7.9%	10.0%	67.9%	0.5%	100.0%
松阪商業高校	商業 国際	43	14	34	62	3	156
		27.6%	9.0%	21.8%	39.7%	1.9%	100.0%
飯南高校	総合	4	3	12	48	2	69
		5.8%	4.3%	17.4%	69.6%	2.9%	100.0%
相可高校	普通	32	12	28	4	1	77
		41.6%	15.6%	36.4%	5.2%	1.3%	100.0%
	農業 家庭	9	6	9	91	1	116
		7.8%	5.2%	7.8%	78.4%	0.9%	100.0%
昴学園高校	総合	11	2	12	20	0	45
		24.4%	4.4%	26.7%	44.4%	0%	100.0%
普通科計 (理数科含む)		282	14	35	5	15	351
		80.3%	4.0%	10.0%	1.4%	4.3%	100.0%
専門学科計		78	35	62	282	5	462
		16.9%	7.6%	13.4%	61.0%	1.1%	100.0%
総合学科計		15	5	24	68	2	114
		13.2%	4.4%	21.1%	59.6%	1.8%	100.0%
合計		375	54	121	355	22	927
		40.5%	5.8%	13.1%	38.3%	2.4%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大」は高専を含む

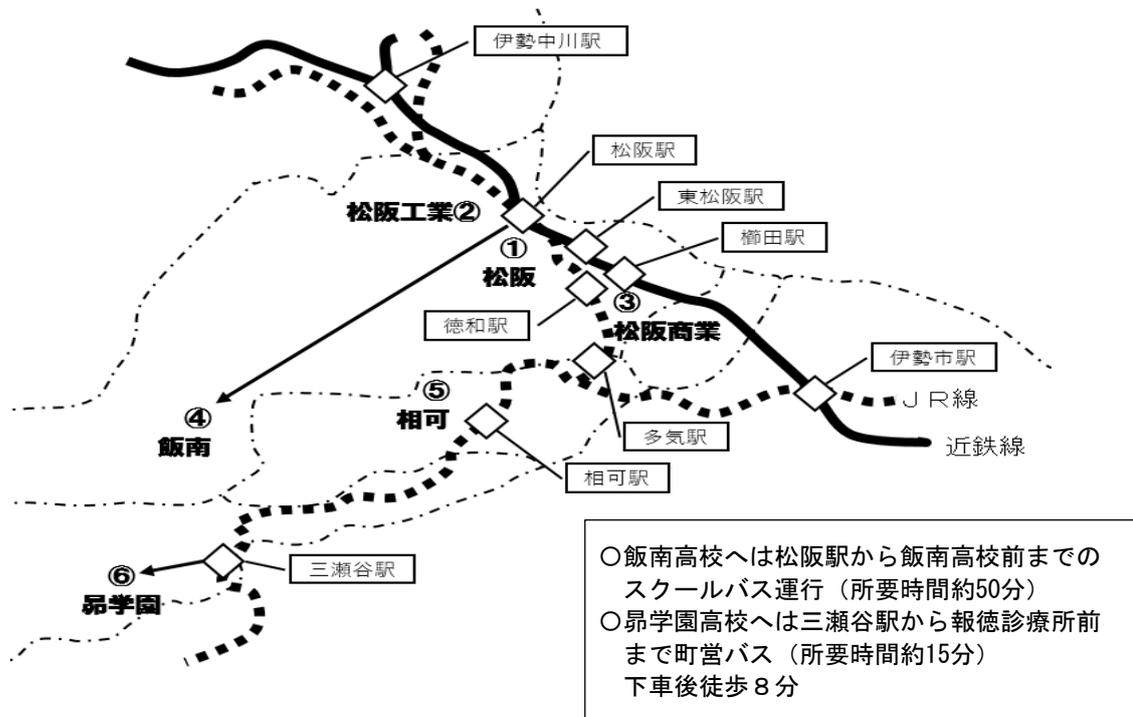
※「その他」は進学待機を含む

松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和5年3月卒)

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪高校	普通 理数	294	4	2	1	18	319
		92.2%	1.3%	0.6%	0.3%	5.6%	100.0%
松阪工業高校	工業	21	16	31	155	1	224
		9.4%	7.1%	13.8%	69.2%	0.4%	100.0%
松阪商業高校	商業 国際	41	5	35	56	2	139
		29.5%	3.6%	25.2%	40.3%	1.4%	100.0%
飯南高校	総合	5	6	18	40	4	73
		6.8%	8.2%	24.7%	54.8%	5.5%	100.0%
相可高校	普通	34	4	22	7	0	67
		50.7%	6.0%	32.8%	10.4%	0%	100.0%
	農業 家庭	12	3	18	72	0	105
		11.4%	2.9%	17.1%	68.6%	0%	100.0%
昴学園高校	総合	8	5	13	21	0	47
		17.0%	10.6%	27.7%	44.7%	0%	100.0%
普通科計 (理数科含む)		328	8	24	8	18	386
		85.0%	2.1%	6.2%	2.1%	4.7%	100.0%
専門学科計		74	24	84	283	3	468
		15.8%	5.1%	17.9%	60.5%	0.6%	100.0%
総合学科計		13	11	31	61	4	120
		10.8%	9.2%	25.8%	50.8%	3.3%	100.0%
合計		415	43	139	352	25	974
		42.6%	4.4%	14.3%	36.1%	2.6%	100.0%

(1) 通学における主な路線図

(R6第2回協議会資料)



(2) 通学方法別生徒数と割合

R6. 5. 1 学校基本調査より

通学方法		学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計
徒歩のみ			17	21	5	1	11	162	217
			2.0%	3.6%	1.1%	0.5%	1.9%	81.4%	7.4%
自転車のみ			386	306	201	18	206	10	1,127
			44.3%	52.2%	42.6%	8.5%	35.9%	5.0%	38.7%
JRのみ			8	56	7	0	81	0	152
			0.9%	9.6%	1.5%	0%	14.1%	0%	5.2%
私鉄のみ			189	99	15	0	10	0	313
			21.7%	16.9%	3.2%	0%	1.7%	0%	10.7%
バスのみ			27	13	1	135	56	11	243
			3.1%	2.2%	0.2%	63.7%	9.8%	5.5%	8.3%
船のみ			0	0	0	0	0	0	0
			0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
JRと	私鉄		5	0	0	0	1	0	6
			0.6%	0%	0%	0%	0.2%	0%	0.2%
	バス		3	7	0	4	11	16	41
			0.3%	1.2%	0.0%	1.9%	1.9%	8.0%	1.4%
	自転車		76	26	65	0	64	0	231
			8.7%	4.4%	13.8%	0.0%	11.1%	0%	7.9%
私鉄と	バス		13	3	4	16	37	0	73
			1.5%	0.5%	0.8%	7.5%	6.4%	0%	2.5%
	船		0	0	0	0	0	0	0
			0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	自転車		110	48	143	0	9	0	310
			12.6%	8.2%	30.3%	0%	1.6%	0%	10.6%
バスと	船		0	0	0	0	0	0	0
			0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	自転車		9	3	11	34	31	0	88
			1.0%	0.5%	2.3%	16.0%	5.4%	0%	3.0%
その他 (車送迎、3つ以上の交通機関等)			28	4	20	4	57	0	113
			3.2%	0.7%	4.2%	1.9%	9.9%	0%	3.9%
合計			871	586	472	212	574	199	2,914

(3) 通学費用別生徒数と割合

R6. 5. 1 学校基本調査より

費用 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計	積み上げ
不要	405	332	223	25	235	172	1,392	1,392
	46.5%	56.7%	47.2%	11.8%	40.9%	86.4%	47.8%	47.8%
3,000円以内	48	8	26	5	14	0	101	1,493
	5.5%	1.4%	5.5%	2.4%	2.4%	0%	3.5%	51.2%
5,000円以内	259	122	120	2	49	11	563	2,056
	29.7%	20.8%	25.4%	0.9%	8.5%	5.5%	19.3%	70.6%
7,000円以内	63	82	60	3	84	0	292	2,348
	7.2%	14.0%	12.7%	1.4%	14.6%	0%	10.0%	80.6%
9,000円以内	30	14	16	4	60	6	130	2,478
	3.4%	2.4%	3.4%	1.9%	10.5%	3.0%	4.5%	85.0%
11,000円以内	18	12	4	3	41	8	86	2,564
	2.1%	2.0%	0.8%	1.4%	7.1%	4.0%	3.0%	88.0%
13,000円以内	26	9	11	105	51	2	204	2,768
	3.0%	1.5%	2.3%	49.5%	8.9%	1.0%	7.0%	95.0%
15,000円以内	11	3	8	11	19	0	52	2,820
	1.3%	0.5%	1.7%	5.2%	3.3%	0%	1.8%	96.8%
15,001円以上	11	4	4	54	21	0	94	2,914
	1.3%	0.7%	0.8%	25.5%	3.7%	0%	3.2%	100.0%
合計	871	586	472	212	574	199	2,914	2,914

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R6. 5. 1 学校基本調査より

時間 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計	積み上げ
15分以内	189	128	44	18	80	165	624	624
	21.7%	21.8%	9.3%	8.5%	13.9%	82.9%	21.4%	21.4%
30分以内	262	178	148	19	111	16	734	1,358
	30.1%	30.4%	31.4%	9.0%	19.3%	8.0%	25.2%	46.6%
45分以内	207	138	111	29	140	2	627	1,985
	23.8%	23.5%	23.5%	13.7%	24.4%	1.0%	21.5%	68.1%
60分以内	154	90	104	95	144	3	590	2,575
	17.7%	15.4%	22.0%	44.8%	25.1%	1.5%	20.2%	88.4%
90分以内	51	42	50	48	72	12	275	2,850
	5.9%	7.2%	10.6%	22.6%	12.5%	6.0%	9.4%	97.8%
120分以内	7	10	13	2	22	1	55	2,905
	0.8%	1.7%	2.8%	0.9%	3.8%	0.5%	1.9%	99.7%
121分以上	1	0	2	1	5	0	9	2,914
	0.1%	0%	0.4%	0.5%	0.9%	0%	0.3%	100.0%
合計	871	586	472	212	574	199	2,914	2,914

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

種別 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計
下宿	5	3	2	0	10	158	178
寄宿舎	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	3	2	0	10	158	178

専門学科の学び

高校	学科	定員	学科名	学びの内容
松阪商業	【商業】	120	総合ビジネス	○商業に関する知識・技術を習得し、地域社会で活躍をめざす商業学科 ○簿記や情報処理の検定や、より高度な国家試験にも挑戦できます。
		40	国際ビジネス	○商業に関する知識・技術を習得し、グローバル社会での活躍をめざす商業学科 ○簿記や情報処理の検定や国家試験とともに、英検対策講座を受講することで、実用英検の準2級～3級、それ以上のレベルにもチャレンジ。
松坂工業	【工業】	40	工業化学科	○化学の基礎を中心に学習するとともに、化学工業分野で働くために必要な製造技術・化学分析の技術・環境を守るために、教科書だけでなく実習を通して学習します。 ○危険物取扱者等の職業資格を取得し、製造業に携わる者としての技術とセンスを身につけ、将来産業界で活躍できる人材の育成を目指します。
		40	機械科	○機械の設計・製作などの基礎だけでなく、最新のコンピュータを使用した自動化システムなどの最新技術の学習にも多くの時間を割り当てており、技術革新のめざましい産業界で常に活躍できる人材の育成を目指しています。 ○ものづくりの現場で役立つ各種国家資格や技能検定の受験だけでなく、社会人として必要な挨拶・礼儀などのマナーを身につけることにも力をいれています。
		40	繊維デザイン科	○デッサンをはじめ、絵画・彫刻など、芸術表現としての作品制作を積極的に行い、造形活動を通して物事をより深く見抜く洞察力や思考力・コミュニケーション能力を磨き、将来様々な分野において基礎となる広い意味でのデザイン能力を身につけることに重点を置いています。 ○美術大学や芸術大学へ進学する生徒に対して進学対策補習も行い、一般入試にも対応できる実技指導を行っています。
		40	自動車科	○国土交通省の一種自動車整備士養成施設にも指定されており、機械や電気などの工業基礎分野と自動車に関する専門的な知識と技術を、自動車を通じて身につけます。 ○各種資格取得やマナー教育を通じて、高校卒業後に産業界で活躍できる人材の教育にも力をいれています。
		40	電気工学科	○電力の発生から輸送に至るまで、応用技術や情報技術などの電気・電子工学の分野を基礎から応用まで幅広く学習し、確かな専門知識の習得をめざすと同時に、一人ひとりが自分自身の本当の力を発見して、将来にわたって通用する問題解決能力を養うことを目標としています。 ○「第3種電気主任技術者」「第2種電気工事士」をはじめとする資格を取得
相可	【農業】	40	生産経済科	○農産物生産の基礎・基本とその流通、園芸福祉、環境問題を学び、地域農業をはじめとする、地域産業の発展を担う産業人の育成をめざします。
		40	環境創造科	○生活の基礎を支える「街づくり」と「国土安全」を基本としながら、人々が自然と共生していくための循環型社会の形成を目標に、新たな環境を創造していくことができる技術者を養成します。
	40	食物調理科	○調理師コースと製菓コースとがあり、校内での実習の他、国内外における研修やインターンシップなど、数々の経験を重ね、高い技術と意識を併せ持つことで、グローバル、グローバルな場で活躍できるプロフェッショナルをめざします。	

総合学科の学び

高校	学科	定員	系列名	学びの内容
飯南	【総合】	80	郷土・環境	○農業・木工・陶芸などの実習を中心とした授業を通して、農業・環境・郷土に関わる知識や技術を身につけ、実践的な技能や探究的な態度を養います。 ○危険物取扱者資格や農業技術検定などの資格取得にも取り組みます。
			介護福祉	○高齢者の介護や福祉に関する知識・技術を学び、それを生かして福祉・看護関係への進学や就職を目指します。また、地域課題に取り組み、より実践的な探究活動を行うことで社会貢献し、学習意欲も向上させます。 ○資格は、介護職員初任者研修、福祉住環境コーディネーターなどの取得を目指します。
			総合進学	○論文力やプレゼンテーション能力の向上を図りながら、追究力や発信力を身に付けて進学を目指す。 ○地域の課題を統計データに基づいて考えたり、グローバルな視点でものごとを見たりと、地域を自分ごと化しながら学びを深める。 ○進学や就職への意欲を高めます。
			コンピュータ	○ビジネスの基本を学び、その知識を活かして情報活用能力・会計情報提供活用能力・ビジネス探求能力を身につけ、ビジネス社会をリードしていく人材の育成を目指す。
昇学園	【総合】	80	国際交流	○大台町でのフィールドワーク、地域で活躍される方の講演などを通して大台町の魅力を知り、課題を探究し、活性化につながる取り組みを実施します。 ○データサイエンス、英語コミュニケーションなどの授業を設置し、様々な観点から探究活動を行えるようサポートします。 ○これらの活動を行う中で課題解決力・協調性・プレゼン力を養い、次世代の担い手を育成することを目指します。
			総合スポーツ	○競技スポーツや体育理論、トレーニング理論を通して、様々なスポーツの技術や知識を身につけるだけでなく、野外で行うレクリエーションスポーツやニュースポーツを行い、自ら興味を持って、進んでスポーツに関わり、楽しむことと、そのスポーツを指導していきける資質や能力を養うことを目標に学習を進めます。 ○将来、スポーツの指導者として、地域スポーツや生涯スポーツの発展に貢献していける知識と技術の習得や態度を学ぶことを目標としています。
			美術工芸	○美術(絵画・彫刻など)、工芸(陶芸など)、デザイン(ビジュアルデザイン・情報メディアデザインなど)の各分野にかかわる専門科目の履修を通して、造形の基礎的な内容の学習や専門的な技術の習得をしていくとともに、自分自身の表現を発見していくことをめざします。
			生活福祉	○適切な介護が行えるように、生活福祉全般において幅広く学習を進めていきます。技術と人を尊ぶ福祉の心を養い、福祉系上級学校への進学、福祉施設への就職をめざします。
			環境技術	○農業、野菜作り、環境に関わる学習を行い、環境を大切にしたい社会を形成するために必要な力をつけます。 ○実験・実習を重視する一方、各種資格取得を推進します。

※学びの内容は、各校ホームページや各校の特色(第1回協議会資料)を参考に記載

高校	学科	定員	学科名・コース / 系列名	学びの内容
宇治山田商業	【商業】	80	商業科	<p>経理コース</p> <p>○ビジネスに関する幅広い知識と技術を習得し、より専門的な知識や技術を備えた人材を育成します。</p> <p>マーケティングコース</p> <p>○簿記、情報処理などのビジネスに関する幅広い資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。</p>
			情報処理科	<p>情報エキスパートコース</p> <p>○進展する情報化社会において、情報を処理・分析し、情報機器を活用した業務改善が提案できる人材を育成します。</p> <p>ITエキスパートコース</p> <p>○ITパスポート、基本情報技術者等の国家資格を中心に、簿記などのビジネスに関する資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。</p>
		40	国際科	<p>英語エキスパートコース</p> <p>○多角的な英語の授業により実践的なコミュニケーション能力を身につけるとともに、簿記や情報処理などビジネスに関する知識や技術を習得し、国際社会で活躍できるグローバルな人材を育成します。</p> <p>英語ビジネスコース</p> <p>○実用英語検定をはじめ、簿記などのビジネスに関する幅広い資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。</p>
伊勢工業	【工業】	80	機械科	<p>○機械工業に関する知識と技術を習得し、工業のあらゆる分野において教養豊かな幅広い想像力に富んだ技術者の養成を目標にしています。</p> <p>○機械工作・機械製図・機械設計・原動機・電気回路・工業情報処理等により基礎的理論を学習します。</p> <p>○各種工作機械・仕上げ組み立て・鋳造・塑性加工・溶接実習等の生産的実習、そして内燃機関の構造、実験装置による材料試験・流体実験・計測制御等により専門的技術を身につけます。</p> <p>○最新技術に対応するため、NCフライス盤等による数値制御実習やCAD/CAMによる設計製図やメカトロ教育について学習をします。</p>
		40	電気科	<p>○電気に関する知識と技術を習得し、電力・通信・電気施設・その他電気の各分野で活躍できる熟練ある技術者を育成しています。</p> <p>○電気回路、電気機器、電子技術、電力技術を学習します。また、これらに関する実験・実習・製図などにより専門的な技術を身につけます。</p>
		40	建築科	<p>○建築に関する知識と技術を習得し、建築技術関係の分野において建築物の設計、管理、施工、行政などの業務に従事する建築技術者を養成しています。</p> <p>○各種建物の建築計画設備・設計法、形態や色彩についての感覚、図面の描き方・読み方、建物の構造法や強度の計算法、工事を進める順序や工法、材料の性質や必要な数量を見積もる方法、実際に土地を測量する方法、材料や構造物の検査や試験をする実験、データをパソコンで処理する方法などを学習します。</p>
明野	【農業】	40	生産科学科	○食料生産を中心とした農業生産に関する知識や技術を習得するとともに、現代の農業・農業関連産業を支え、農業の各分野で活用できる能力と態度を育成します。
		40	食品科学科	○食品の加工・貯蔵・品質管理および食品衛生に関する知識や技術を総合的に学びます。将来食品業界や関連産業で貢献できる人間性豊かな能力と態度を育成します。
	40	生活教養科	デザインコース	○ファッションデザイン・被服製作・課題研究の中で衣生活に関する基礎的・専門的な知識と技術を習得します。
			調理コース	○調理・食品・食文化・課題研究といった授業をおとして調理や栄養など食分野の専門知識や基礎的技術の習得をめざします。
	40	福祉科	社会福祉コース	○多様化する社会福祉に対応できる福祉の基礎を学習します。
			介護福祉コース	○介護のスペシャリストとしての専門知識・技術を習得します。
水産	【水産】	40	海洋コース	○乗船実習を中心とした専門的な学習を通じて航海や海に関する知識・技術を習得し、海技士（航海）・1級小型船舶操縦士の資格取得を目指すとともに、ダイビング実習等を通じて海洋についての知識・理解を様々な角度から深め、水産業界をはじめとする各産業界や地域に貢献できる人材を育成します。
			機関コース	○乗船実習を中心とした専門的な学習を通じて、船舶の機関士に関する知識・技術を習得し、海技士（機関）・1級小型船舶操縦士の資格取得を目指すとともに、併せて工学に関する基礎的な学習を幅広く行いながら、船舶、工業、港湾関連や地域に貢献できる人材を育成します。
			水産工学コース	○工学的な分野だけではなく、水産、海洋、商業といった多種多様な専門的な学習を行います。併せて広い範囲の専門教科の学習を行い、機械系製造業の関連業界で活躍できる人材を育成します。
40	水産資源科	アクアデザインコース	○乾製品、ねり製品、佃煮、ビン詰め、燻製品等の水産加工食品を中心に様々な食品についての知識・調理・加工技術を学習します。原材料や副材料についての学習を通じ、様々な食材の特徴や利用について理解を深めます。食品の品質管理や安全管理についての知識を習得し、食に関する関連業界で活躍できる人材を育成します。	
		アクアフードコース	○水産加工品を中心に、様々な食品についての知識、調理、加工技術を学ぶ	
鳥羽	【総合】	40	観光ビジネス系列	○情報処理やビジネスの基本、観光地鳥羽の魅力、商品開発などを学びます。
			総合福祉系列	○福祉・保育施設等での体験実習、高齢者などへの援助の方法などを学びます。
			人文教養系列	○少人数講座が多く、一人ひとりの学習状況・進路希望に応じて学びます。

※学びの内容は、各校ホームページや各校の特色（R6第1回伊勢志摩協議会資料）を参考に記載

【参考】津地域の専門学科と総合学科の学び

(R6第2回協議会資料) 資料11-③

高校	学科	定員	学科名・コース / 系列名		学びの内容
津商業	【商業】	200	ビジネス科	—	○ビジネス社会で必要とされる幅広い知識と技術（経営状況と経済の動向を読み解く力）を高め、実社会で活躍できる人材を育成します。 ○2年次より会計類型と経営情報類型に分かれ、さらに専門性を高めています。
		40	情報システム科	—	○ビジネス社会におけるデジタル人材（経営状況とデータを論理的に活用する力を高め）を育成します。特に、プログラミングやシステム開発をとおして、ICTスキルと課題解決能力を高めています。
津工業	【工業】	120	機械科	—	○「機械技術者としての活躍をめざし、全産業の基盤となる機械工学に必要な、設計や工作、製図や原動機等の知識・技術を学びます。
		40	電気科	—	○電気技術者としての活躍を、また、国家資格の取得もめざし、発電・送電・配電から電気の応用までの知識・技術を幅広く学びます。
		40	電子科	—	○電子技術者としての活躍をめざし、電気の基礎から電子回路、通信技術や情報処理技術等の専門までの知識・技術を幅広く学びます。
		40	建設工学科	建築コース 都市システムコース	○土木技術者、建築技術者としての活躍をめざし、木工実習や基礎測量等の共通の知識・技術とともに、2年次より建築コースと都市システムコースに分かれて専門的な知識・技術を学びます。
久居農林	【農業】	40	生物生産科	食品コース	○多様な生産物から自分たちで安全・安心な加工食品を生み出すスペシャリストをめざします。
				植物コース	○環境に配慮した安全・安心な野菜・果物のスペシャリストをめざします。
		40	生物資源科	動物コース	○命の大切さを基本とし、ペットから家畜まで幅広く動物のスペシャリストをめざします。
				環境情報科	環境保全コース
		40	環境土木科	ガーデニングコース	○花や緑に囲まれた生活空間を創造するスペシャリストをめざします。
				土木・機械コース	○地球環境を守り、快適な生活空間を創造するプランナー・エンジニアをめざす
	【家庭】	80	生活デザイン科	食生活コース	○豊かな食生活を調理実習や食文化の視点から学びます。
				衣生活コース	○豊かな衣生活を服作りと服飾文化の視点から学びます。
リビングコース				○豊かな住まいをものづくりと福祉の視点から学びます。	
白山	【商業】	40	情報コミュニケーション	メディア類型	○パソコンなどのメディアを活用した情報処理や情報発信等の能力を身につけます。
				観光ビジネス類型	○簿記などの商業の学習、地域での体験学習や商品PRなどをとおして、白山地域の観光やおもてなしの精神を学びます。

※学びの内容は、各校の特色（第1回津地域協議会資料）を参考に記載

令和21年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について

令和7年度(現中3) 地域の中学校卒業予定者数 1,879人 入学定員 1,000人	令和8年度(現中2) 地域の中学校卒業予定者数 1,825人 (R7年度比▲54)	令和10年度(現小6) 地域の中学校卒業予定者数 1,754人 (R7年度比▲125)	令和11年度(現小5) 地域の中学校卒業予定者数 1,586人 (R7年度比▲293)	令和21年度 地域の中学校卒業予定者数 1,049人 (R7年度比▲830)
--	--	--	--	---

